



河岡聡さん (kawaoka satoshi)

1962年生まれ、広島県出身。

広島県内の建設関連会社に勤めていたが子どもが手から離れたのをきっかけに2011年移住。

#Iターン #広島県 #有機農業

－なぜ吉賀町にIターン？

農業がしくて。最初、農業するなら北海道だ！と思い北海道の農場を視察に行きましたが、あまりの寒さに心が折れ、断念。その後、移住の相談をしていた広島の方から「近くにいいところがあるよ」といって連れて来てもらったのが吉賀町でした。広島に柿木村のアンテナショップがあった関係で柿木村や福原圧史さんを知っていたのでなんの躊躇もなくIターンを決めました。移住するのに長く時間がかかる人もいますが、私の場合は相談した1ヶ月後には吉賀町で生活していましたね。北海道で「農業するなら大型特殊免許が必要だよ」と聞いていたので免許を取って来たら、吉賀町は農地も機械も小さくて。「普通免許でよかったのか！」って(笑)。

最初に住んでいた六日市地区は主に慣行農業で、自分が目指している農業とは何か違うと感じた河岡さん。

福原さんに紹介してもらい、柿木村で有機農業を行っている方の元で研修を始めました。1年間の産業体験が終わった後は半農半X支援事業制度を利用しながらチンゲンサイや白菜、ピーマンなどの栽培を行い、その後就農しました。



ピーマンの誘引作業をする河岡さんご夫婦

－吉賀町での生活について

まず吉賀町に来て夜が暗い事にびっくりしました。広島とは違い、街頭も少なく本当に真っ暗です。他には雪の量が思ったより多かったこと。ちょうど来た年が大雪だったのですが、屋根から落ちてきた雪で玄関が塞がれたのは計算外でした。

農業に関してはこれまでいろいろな野菜を栽培しましたが、現在は主に、春先にナバナ、夏にピーマン、冬に菌床しいたけを出荷していて、去年からブロッコリーの栽培にも挑戦しています。

一番忙しいピーマンの収穫時期には朝5時から8時まで収穫して、朝ごはんをひと休憩。その後、袋詰め作業を夕方5時頃まで行っています。出荷先は先輩農家さんに紹介してもらい、野菜は主にグリーンコープ(※1)、しいたけはエポックかきのきむら(※2)に卸しています。有機農業をしながらの暮らしは毎日が試行錯誤ですよ。有機栽培だと、草もすぐ生えるし、虫も多い。除草方法を工夫したり、虫の生態を調べたりと毎日やるのがいっぱいです。アブラムシの天敵の天道虫をハウスに放すため、夫婦二人で探しに行ったりもしました(笑)。大変ですがそれだけ手をかけた野菜が出来たとき、一番充実しているなと感じます。面白くて楽しいですよ。

これからは、吉賀町で栽培されていないものを作りたいです。

今まで白ねぎを作ってみたり試行錯誤しましたが出荷の規格が合わなかったり、チンゲンサイと白菜を育てたときは収穫量が不足し失敗しました。

でも、一度失敗すると忘れないので失敗を経験することも大事だと分かりました。

何回失敗しても新しいことをするのが好きなのでいろいろ試してみたいなと思っています。

将来自分が歳をとったら、後継者を育てるためにも今やっているピーマンなどを若い人に引き継いでいこうと考えています。

※1：食品の品質と安全性に力を入れている生協で、商品の多くは原料が産直品、国産品、天然のもの。

※2：道の駅かきのきむらや広島県にあるアンテナショップを運営している吉賀町の企業。

－これから移住・定住を考える人へメッセージ

田舎での生活は思っているより厳しいので「とりあえず来てみれば？」とは言えません。

農業で生活したいという方には、しっかり準備してから移住することをお勧めします。まずはいつもどおりの生活が出来ないと農業も出来ないのです。

農法についてはこだわりを持って来る人もいますが、まずはその地元のやり方を受け入れてやってみれば良い。生活できるようになってからいろいろ挑戦していけばいいと思いますよ。

